

双方向人材紹介オークション Free Agent の開発

デモ-07

永井義明⁺, 森龍二^{*}, 千種康民^{*}, 石丸雅彦⁺, 大山充⁺

^{*}東京工科大学 ⁺東京総合研究所

1. はじめに

従来の Web 上での求人求職環境は一方通行であり, 双方が条件を入れつつ, 交渉していくという過程が自動化されていない. そのため多くの手間と時間を必要としてきた.

当システムは, 登録された人材のデータと, 求人側から要求されるデータとを自動的に照合し, 条件に合った最適な人材及び企業を紹介できる. また双方の提示する条件にどの程度重きを置くか点数により表示する. この結果, 求職側と求人側との一致する度合いを客観的な数字により判定できるため, 企業, 人材の集中化を防ぎ, ロスの最小化が可能となり, 効率の良い求人求職が実現する. 当システムは, 現在東京工科大学で運用されている.

2. FA エンジンについて

具体的なマッチングを実行するのは FA エンジン (図 1) である. ここではその動作について述べる.

A 群の A1~A4, および B 群の B1~B5 は予め, 希望条件とその条件に対する各人の希望に応じた重み付け (重要度) を数値として登録しておく.

群 A の A1 を例にあげると A1 の希望条件を元に群 B 全体の対応する条件の比較を行い, 条件の一致の有無とその条件の重要度から群 B 全員に順位付けをする. これが A1 に対する順位付けである. 同様に群 B についても順位付けをしていく. A1 から見ると, 希望条件と一致しており, かつ重要度が高い項目が多い B 群の B1~B5 ほど, 上位の順位になる.

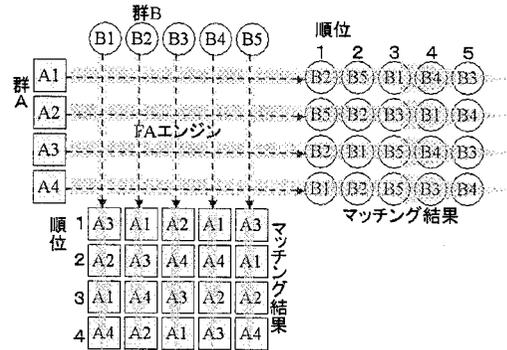


図 1. FA エンジンの概要

希望条件の照合について図 2 に例をあげて説明する. 企業側の希望条件は, JAVA の技術者で, 年収 500 万円以下, 通勤時間 0.5 時間以内, であるが, JAVA の才能の重要度を高くしている. 才能 A の希望条件は, 年収および通勤時間において企業側の条件は満たしているが, 企業側の重要度の高い条件である JAVA 言語を知らないため, 企業側の順位は低く, 企業からの評価が低い. 才能 B の希望条件は, 年収, 通勤時間も条件を満たしていないが, JAVA 言語の才能を持っているため, 結果として才能 A よりも順位は高く, その企業からの評価が高くなる.

- プログラムの例 -

企業側(勤務地渋谷)	才能側	評価
才能要件(企業側希望条件)	才能 A	
言語 Java	言語 VC++	0点
年収 年収500万円以内	VB	0点
通勤時間 0.5時間以内	年収400万円以上	30点
	通勤時間0.5時間以内	10点
	才能 B	
	言語 Java	100点
	年収600万円以上	-10点
	通勤時間1.5時間以内	0点
		40点
		90点

図 2. 照合条件の設定例

Web Application: Free Agent

Yoshiaki Nagai, Ryuji Mori, Yasutami Chigusa,

Masahiko Ishimaru, Mitsuru Ohyama

Tokyo University of Technology, Tokyo Research Institute

E-Mail chigusa@cc.teu.ac.jp

URL http://www.teu.ac.jp/chiit/

3. 東京工科大学での運用

システムの動作テスト、運用手順の確認、及び使い勝手の改善を行なうため、東京工科大学で実際にシステム運用を行なった。システム構成を図3に、またオークションの登録状況、実施状況を表1に示す。学生側のデータはブラウザを用いて入力してもらい、企業側のデータは大学の企業データを流用した。

動作テストでは、オークション結果、複数同時アクセス時の動作、応答時間、異なるOS・ブラウザでの動作などを確認した。オークションは約70%の学生が満足のいく結果であった。更にミスマッチングを減らすには、重要度の設定の仕方を考慮する必要があると思われる。運用手順ではオークション、データのバックアップ、企業データの更新などを行なった。これらの作業は手作業で行なったが、本運用では自動化する必要がある。使い勝手では入力フォームの形態、記入時の注意書き、セッション時間の調整、オークション参加の登録方法などを修正した。入力フォームがある場合は、画面構成がそのまま使い勝手につながる。実行画面を図4、図5に示す。

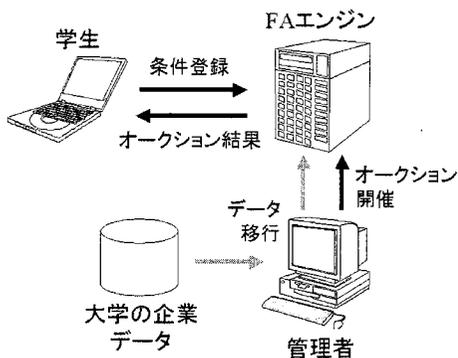


図3: 東京工科大学での運用

登録学生数	53人
登録企業数	2042社
オークション開催数	4回

表1: オークションの状況

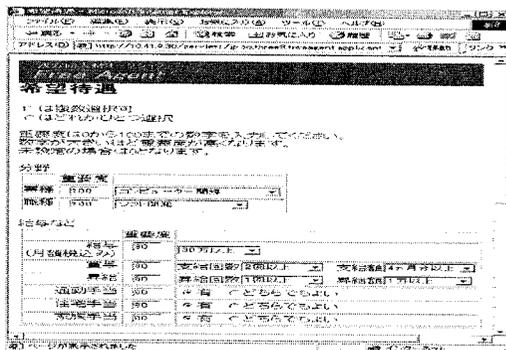


図4: 希望待遇入力画面

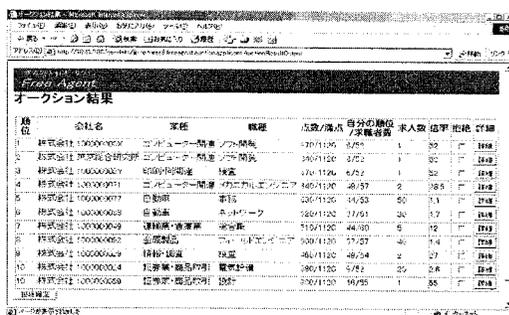


図5: オークション結果画面

4. おわりに

東京工科大学での運用を通じて、機能・運営の基本的な部分の検証および2002年度における本格的な運用のための利用状況の把握を行った。今後、多数サンプルによる双方向オークションの精度確認、大規模システムでの運用、セキュリティ対策、カスタマイズの容易性などを考慮する必要がある。また今後は、不動産、結婚情報など、求人求職以外の分野への応用も考えていきたい。

参考文献

[1]神場 知成, 古関 幸義:”ひとりひとりにオーダーメイドの情報を –パーソナライゼーション技術–”, 電子情報通信学会誌 Vol.82, No.4, pp.354-359(1999)
 [2] 板垣, 杉山, 木下, 白鳥:”利用者特性を考慮したサービス提供手法の一考察” 情報処理学会第59回(平成12年前期)全国大会 4ZC-01(2000)